

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年10月14日更新

事務事業名		総合センター第2次空調設備改修事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	教育委員会事務局 教育部	課長名	上原 哲也
	施策	20	生涯学習の推進				所属課	生涯学習課	担当者名	泉田 聡
	基本事業	70	生涯学習・スポーツ施設(環境)の整備				所属班	生涯学習班	(内線)	1514
予算科目		会計一般	款10	項5	目2	事業連番11438	法令根拠	成果優先度評価結果: ⑫ コスト削減優先度評価結果: ⑥		
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始年度 23 ~ 24 年度) ☒ 期間限定複数年度		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	総合センター「ヴィーブル」の空調設備の計画的改修事業で、今回は第2次空調設備改修として蓄熱槽系統の熱源機器及びその周辺機器の改修を行う。当センターは生涯学習、生涯スポーツの一大拠点として多くの市民に利用されており、今後益々多くの利用が見込まれる。なお、開館から15年が経過し、劣化の進む空調設備の計画的改修を行う必要がある。
【業務の流れ】	蓄熱槽系統の熱源機器及びその周辺機器の更新と整備。
【主な予算費目】	工事請負費、監理委託料。
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	経年劣化による空調設備の故障が頻発しており、時折施設利用者から苦情が出ている。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分: 新規
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動)(DO) 蓄熱式系統の空調設備の機器更新及び整備。		23年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 23年度で設計、24年度で工事と監理を計画している。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
⇒ ア: 総事業費	千円	【新規事業】経年老朽化による吸収式冷水温機の交換及び配管工事
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 市民、市外からの通勤・通学者	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
	⇒ ア: 人口	人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 総合センター「ヴィーブル」の施設を快適に利用してもらう。	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
	⇒ ア: 施設の改修回数	回
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠 一度の改修に莫大な費用を要するため、長期計画的に且つ確実に改修を行っていく必要がある。		

(2)各指標・総事業費 の推移				単位	20年度 実績(決算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	22年度 実績(決算)	23年度 目標(当初予算)	24年度 予定	25年度 見込	総トータルコスト 全体計画 ～24年度
① 活動指標		アイ	千円	0	0	0	0	3,977	95,597	0		
② 対象指標		アイ	人	0	0	0	0	55,550	56,000	0		
③ 成果指標		アイ	回	0	0	0	0	1	1	0		
投資 入費 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	千円									(期間限定複数年度のみ記載)
		都道府県支出金	千円									
		地方債	千円						90,817			
		その他	千円									
		繰入金	千円									
		一般財源	千円				66,759	3,977	4,780			
	(A) 事業費計	千円	0	0	0	66,759	3,977	95,597	0			
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	90,817	0		
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0		
	人件 費	正規職員従事人数	人	0	0	0	1	0	0	0	0	
		延べ業務時間	時間	0	0	0	150	0	0	0	0	
	(B)人件費計		千円	0	0	0	618	0	0	0	0	
トータルコスト(A)+(B)			千円	0	0	0	67,377	3,977	95,597	0	99,574	

事務事業名	総合センター第2次空調設備改修事業	所属部	教育委員会事務局 教育部	所属課	生涯学習課
-------	-------------------	-----	--------------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は22年度の実績評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☐ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 23年度で設計を行い、24年度で工事と監理を行う予定である。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 経年劣化による施設の利便性低下を抑えるため、計画的に改修を行う必要がある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 代替案は策定していない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 計画的改修を行うことにより、エネルギー効率が改善され、将来的にコスト削減につながる。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 担当する職員は、必要最小限度で抑える。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 現在、空調設備については、ほぼ全ての施設において使用料金を徴収しているため、空調設備を快適に利用していただくための改修として、受益者負担の原則に適っている。
	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 公共施設設備の計画的改修であり、行政側が行う必要がある。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

蓄熱式系統の空調機器を入替え更新することにより、故障発生回数が激減すると思われる。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） 長期的改修計画であり、第3次をもって施設全体の空調改修を完結する予定である。		(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 特になし																								